

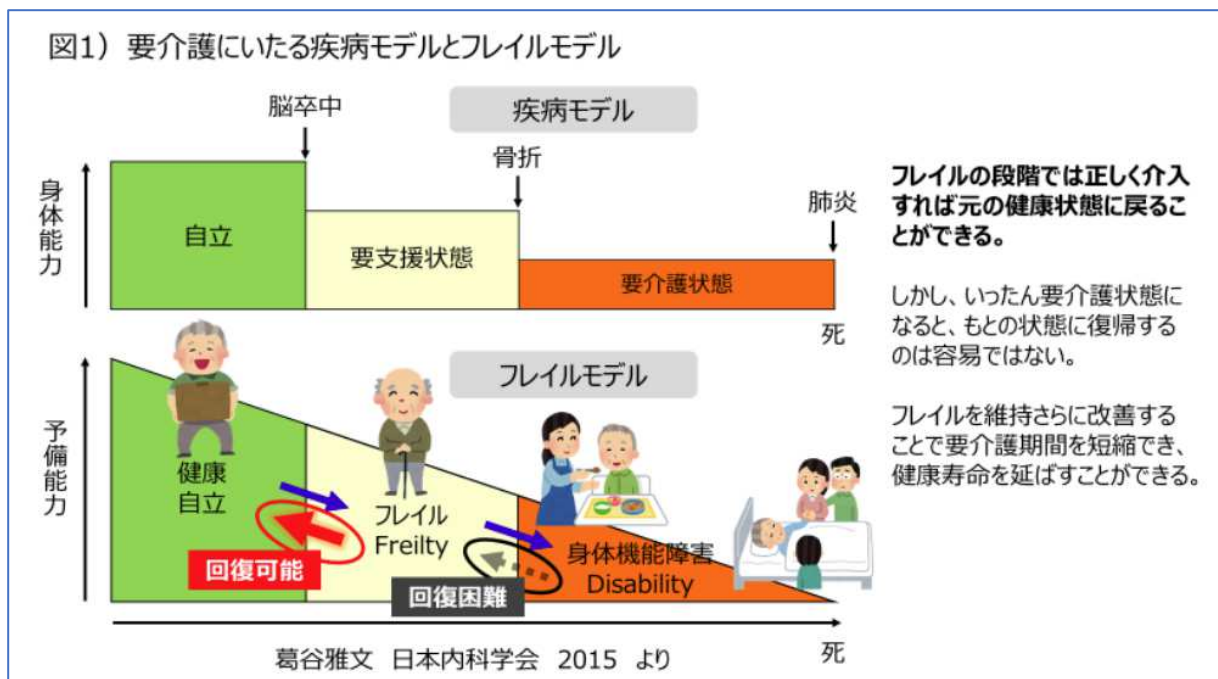
## 6. 解説「関連データ・用語・仕組み」:「フレイル」とは

後期高齢者が増加する超高齢社会において、「健康」と「要介護」の間に位置する状態「フレイル」が注目されている。

フレイルについて、厚生労働省保険局高齢者医療課「厚労省高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン 平成30年4月」によると、「フレイル」とは、「加齢に伴う予備能力低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態」を表す“frailty”の日本語訳として日本老年医学会が提唱した用語である。フレイルは、「要介護状態に至る前段階として位置づけられるが、身体的脆弱性のみならず精神心理的脆弱性などの多面的な問題を抱えやすく、自立障害や死亡を含む健康障害を招きやすいハイリスク状態を意味する。」と定義されている。つまり、「健康」と「フレイル」は可逆性があるが、「フレイル」と「要介護」は不可逆性という関係を含み、フレイルの状態段階での社会的ケアが重要であると云うことである。そのためにも、フレイルの早期検知がまずは必要であり、多方面からの検討がなされている。

補：“frailty”の日本語訳として日本老年医学会が提唱した用語の背景（意味合い）

フレイルという用語は海外の老年医学の分野で使用されている英語の「Frailty（フレイルティ）」に対する日本語訳で、Frailtyに対応する本来の日本語は「虚弱」や「衰弱」です。しかし、虚弱や衰弱では「加齢に伴って不可逆的に老い衰える」、すなわち「元に戻らない」といった誤ったイメージを与えかねません。そこで、日本老年医学会は高齢者に起こりやすい「Frailty」に対し、「正しく介入すれば元に戻る」ということを強調するため、2014年5月、英語のまま「フレイル」という用語を用いることを提唱した（図1）



出典：<https://kunichika-naika.com/information/hitori201709>